シンポジウムⅠ

「江戸のモノづくり」における医史学研究
——拡充と越境

Ⅰ-1　器物・文献資料総合データベースを用いた医史学研究の試み

月澤　美代子
順天堂大学医学部医史学研究室

情報の電子データ化が進んでいる。医史学分野においても例外ではない。パリ大学医学図書館 Bibliothéque interuniversitaire de médecine のホームページBIUMを開くと Galenus全集をはじめとした貴重な原典を一ページづつ直接ダウンロードすることができる。我が国でも九州大学附属図書館古医書画像データベース、内藤記念くすり博物館収蔵品デジタルアーカイブなど所蔵資料をデータベース化し極めて美しい電子画像を公開するところも多くなってきた。しかし、データベース・システムの構築を業者に委託するには多額の資金が必要であり、データ登録には多くの労力を必要とする。研究者にとって使い勝手のよい独自の新たな工夫を加えるには専門的な知識をもった技術者の援助が必要だが、これには、さらに多額の資金が必要となる。

文部科学省特定領域研究「江戸のモノづくり」A〇五—二五班（「科学に関する文献資料と実物資料を総合的に扱えるコミュニケーションの研究」研究代表・月澤美代子）では、IT技術を専門としない研究者にとって使い勝手と作り勝手のよい、しかも、文献資料のみならず医科器械や解剖模型等の実物資料も総合的に取り扱うことのできるデータベース方式の検討と、これを用いた多領域にわたる研究者間の共同研究を可能にさせる条件を模索してきた。

一年目の成果である「九州大学医学部所蔵資料データベース」に関しては、九州大学で行われた第一〇四回日本医史学会総会の会場で公開展示し、参観者に実際に操作していただいた。ここでは、二年目の成果と

して部分的に試作したＪＭＨ器物・文献資料総合データベースと、現在試作・検討中の２００４―５データベース（仮称）の特色を紹介したい。

一、ＪＭＨ器物・文献資料総合データベース

医史学研究で取り扱う器物資料には、人体模型、顕微鏡、薬箱などのように、全体として一つの機能をもつとともに、それ自体独自の意味をもち独立した研究対象となるような多数の部分（Parts）から構成される物がある。試作したＪＭＨ器物・文献資料総合データベースでは、器物資料、文献資料ともに、研究者が独自の視点から自由に組み立て直した Parts に分類して登録・検索することが可能であり、関連しあう器物資料画像、文献資料画像を同時に複数、画面に呼び出し、相互に比較検討して研究を進めることができる。

今回は、サンプル登録資料としている九州大学医学部所蔵人体模型の画像と、オズー製作の人体模型の画像資料、関連文献資料の画像を比較して得た成果を、局所解剖学的表現と金具の二つの面から紹介したい。

二、２００４―５ＤＢ（仮称）の紹介

ＪＭＨ器物・文献資料総合データベースは特定のテーマを掘り下げて研究するためのツールとしては有用である。しかし、このデータベースに一件の資料を登録するには、三枚の Excel シートを完成し、ＴＩＦＦまたはＢＭＰ形式で撮影した画像をさらに特定のソフトで変換した上、データを Access シートに貼り付け直す必要がある。このため、細心かつ多大の労力を必要とする。

資料調査結果の一次登録や、多数の基本的な資料を登録・検索する用途に合ったものとして、汎用性の高い市販のソフトを使用し比較的安易に登録・改変作業の行えるデータベース作成方式を現在、開発中であり、その一部を紹介したい。

（本稿は、文部科学省科学研究費・特定領域Ａ（２）「江戸のモノづくり」研究の一部である。）